

序 説

講談社漢英学習字典は、漢字を本格的に学ぶ学習者の切実な要望に応えるものであり、使い易く小型で携帯性に優れながら、学習者の実際的な要求も充たす漢字字典である。

本字典の主眼は、学習者が最も使用頻度の高い漢字の字義、読み、熟語に関する有用で豊富な情報を即座に得られ、現代日本語に於ける漢字の用法を徹底的に理解できることである。

本字典の独自で有益な特長は「中心義」であり、各漢字の最も中心的な意味を簡潔な英語語句で表わし、次いで詳細な字義を掲げて、数千の基本的な造語成分の組み合わせによって無数の熟語がどのように作り出されるかを明らかにするのである。

明快・完全かつ正確な字義に多数の熟語及び用例を付し、字義は中心義を核として合理的に配列して、一つの統合体として把握できるように工夫した。さらに、同訓異字語のように間違え易い漢字の使い分けについても解説した。

本字典のもう一つの独自の特長は、「字型式検字法」(SKIP)と呼ばれる検字法であり、アルファベット順と同程度の速度で、確実に見出し字が検索できる。この検字法は、使い易い上に短時間で習得できるので、本字典は学習者にとって非常に便利なものとなる。

本字典は最新の言語学理論と高度な情報処理技術を駆使することにより、初・中級者を問わず利用し易いものを創り出した。日本語の学習者は本字典にして初めて、言語学的に正確で使い易く、実際的な要望に綿密に合わせた漢字情報の宝庫を手にすることができるのである。

その他、本字典には様々な特長があり、既存の字典と一線を画する最も有益な漢字学習字典である。

漢字の学習

日本語の表記体系は、「平仮名」及び「片仮名」と呼ばれる2種類の表音節文字、及び「漢字」と呼ばれる数千の中国伝来の文字から構成されている。漢字には形・音・義の三つの基本的な特性がある。漢字の多くは複雑な字形をしており、画数が20～30画を越えるものさえある。ほとんどの漢字には中国伝来の「音読み」と、日本固有の「訓読み」があり、各読みに対して多くの意味があり得る。しかも、発音は同じでも表記が異

なる語(同訓異義語)が多数あるために、日本語の表記は極めて複雑で、習得するにはかなりの努力が必要となる。

しかし、この努力は必ず報われるものである。漢字は数千字の基本的な構成単位を組み合わせることによって無数の熟語が作り出せるからである。漢字は相互に関連のある記号体系であり、単にばらばらな記号の寄せ集めではない。ところが既存の字典には、漢字の字義、特に造語成分としての字義という、捕え所がないか極めて重要な側

面を体系的に取り上げていないという欠陥がある。

日本語学習者は世界各国で急増しているが、これまで漢字を真に会得するために効果的な教材はなかった。今や、外国人の日本語学習者特有の諸問題を体系的に解決する漢字字典が、切実に求められているのである。

斬新な字典

講談社漢英学習字典は、高い目標を掲げた。即ち、現代日本語に於て最も使用頻度の高い漢字を十分に理解できるよう、実用性を備えた道具を創り出すことである。

本字典は体系的手法及び堅固な理論的基盤に立ちつつ、初・中級学習者特有の要望に充分応えるように編まれたものである。各字の正確な字義を提示するという手間の掛かる努力を怠り、単語を並べて読みや部首等の表面的な情報のみを羅列するという、既存の辞典にありがちな安易な道に陥ることは回避した。

本字典は、日本語の表記体系を習得するための辞典や学習教材である漢字統合教材(KIT)の最新作である。上述教材の第一弾である新漢英字典(研究社・NTC社)は、今や定評のある日本語参考書として、世界各国の学者・教育関係者・学習者の間で多大な評価を得ており、本字典の礎をなしている。

本字典は、その原著である新漢英字典の特長の多くを踏襲しており、中心義、詳細な字義、筆順図解、同訓異義語への参照項目、多数の熟語・用例、迅速な検字法等を

含んでいる。さらに、同訓異義語の中心義、新親字の収録、最新(1998年7月)の頻度統計、文字コード、字義の相互関連を示す色分け等、新しい特長も有する。

上記の目標を達成するため、本字典は次の6つの点に於て従来の漢字字典と異なる。即ち、

1. 中心義によって、漢字の基本的な概念が理解できる。
2. 充実した字義が、字義間の相互関連性を理解できるように配列されている。
3. 熟語は意味ごとに配列されているため、その成り立ちは一目瞭然である。
4. 「字型式検字法」(SKIP)によって、容易かつ迅速に検索ができる。
5. 読み易いレイアウトによって、使い勝手が非常に良い。
6. 包括性と携帯性が巧みに両立している。

本字典には他の漢字字典に類を見ない画期的な特色がある。それは辞書に於て基本的に相反する二つの側面、即ち包括性と携帯性の両者を巧みに両立させるべく、丹念に編纂された点である。

即ち、新聞で使用される漢字の99%以上について詳細情報が即座に得られる一方で、鞆に入れて手軽に持ち歩ける程小型・軽量でもある。

上記の他にも本字典ならではの特長があり、従来の字典と一線を画する最も充実した漢字学習字典である。これは、言語学理論、計算辞書学、電子出版の最新技術を最大限に活用することによって成し遂げられたものである。

収録範囲

本字典は現代日本語に於て最も使用頻度の高い漢字の意味と機能に対し、現代的用法及び新聞に於ける用法に重点を置いて、詳細な解説を行っている。親字は2230字に及んでおり、約31,300の語・語素・用例に対して、凡そ41,000の意味を記載した。

収録親字は(1)マスコミや教育現場で広く使用される**常用漢字**1945字、(2)人の名前に使われる**人名用漢字**285字、(3)相互参照項目578字に及ぶ。これによって最も使用頻度の高い漢字が99%以上網羅され、本格的な学習者の要求に充分応え得るものとなる。

熟語は「学習者に最も役立つものを収録する」という基本方針を貫くため、下記の基準に従って収録した。

1. 広く実施されている**日本語学力テスト**に使用される**一万語彙分類集**(専門教育出版発行)記載の語彙の内、一般的に漢字で表記される**全熟語**。
2. **現代新聞の漢字**(国立国語研究所編纂)の統計に基づく使用頻度の高い熟語。
3. その他、中・上級学習者にも役立つよう、見出し字の字義を良く反映する多数の熟語。

読みの収録は下記の基準に従った。

1. **常用漢字表内音訓**の全てと必要に応じてその派生読みを収録した。
2. **常用漢字表外音訓**は原則として対象外にした。但し学習者にとって重要な読み(例：仏 **FUTSU**)は収録した。(なぜこのような重要な読みが常用漢字表から漏れているかは謎である。)

3. 一般的**な名乗り**(専ら固有名詞に使われる読み)、及び**常用漢字表外音訓**または希な読みの内、固有名詞に頻繁に使用される読みを収録した。

原則として、上記の基準に従うことによって学習者に役立つ高頻度の語・語素が網羅されるが、字典を徒に肥大させないよう、下記のように制限した。

1. 接辞語との組み合わせによって造語される多数の熟語(例：「校正済」は「校正」+「済」)は、語義を容易に推測できるため、代表的な例のみ記載した。
2. 名詞の多くは「する」を添加して動詞に、「な」を添加して形容動詞に、「に」を添加して副詞になるが、重要性と字義を反映する好例であるか否かに照らして品詞を選択した。

この方針は、収録語数によって字典を比較した場合、時として誤解を受ける。誤解のないように明記しておく。本字典は基本的に語の辞典ではなく、字の字典である。即ち、字義の理解に直接役立つ熟語を中心に収録することによって、量的包括性よりも質的充実に重点を置いたのである。

漢英字典刊行会

新漢英字典は編纂に延べ66年を要し、1990年の初版発行以来、定評のある漢字学習参考書として、世界各国の日本語の權威に支持されてきた。発行後、多くの学者から同字典独自の数々の特長を漢字学習者や研究者の要求に各々適合する教材として活かすべきだ、という声が寄せられた。かくして同字典は**漢字統合教材**と呼ばれる、コンピュータによって編纂された一連の辞典や教材の第一作となったわけである。

漢字統合教材

KIT計画を実現するため、1993年末に昭和女子大学近代文化研究所の下に**漢英字典刊行会**が設立された。同会は昭和女子大学の人見楠郎学長を会長とし、日本語教育学会会長の水谷修先生を初めとする著名な日本語教育の専門家編修委員会を構成する。また、昭和女子大学及びトヨタ財団等の団体より資金を受けている。

また、上記の各種プロジェクトに対し、中曽根康弘元首相初め、国際交流基金、教育改革審議会、国立国語研究所、日本語教育学会、国語問題協議会、国際日本語普及協会等、日本政府及び諸官庁から篤い支援が寄せられた。

KITの各種字典用データは、日中韓諸語に於ける漢字をあらゆる角度から網羅する「包括的漢字情報データベース」(DESK)に由来する。本データベースと最新の計算辞書学的手法を活用することによって、KITの各字典は高度な統合性と品質の一貫性が保証されるのである。

KITの副産物は多岐に亘っており、学習字典、漢独字典・漢西字典を初めとする外国語漢字字典、CAI/CALコースウェアや電子字典等の教材を含む。現在までに下記の字典が発行されている。

1. 新漢英字典	研究社	1990年	日本国内版
2. 新漢英字典	NTC	1993年	国際版
3. 新漢英字典	日外アソシエーツ	1995年	電子ブック版
4. 講談社漢英学習字典	講談社インターナショナル	1998年	学習者版

次の段階として、本字典のポケット版やドイツ語版を初めとする数種の字典を発行し、引き続き日本語学習に有用な各種の教材を逐次刊行していく。(詳しくは、漢英字典刊行会のウェブサイトwww.kanji.orgを参照されたい。)

我々は研究・出版活動を通じて、学習者、教育者、並びに研究者の個々の要望に添った総括的な解決を図っている。進展中のこの事業に、世界各国の学者が寄与してくれることを期待して止まない。